

「ささえ」

2005, 7月発行 情報誌 第12号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所／福岡県田川市伊田4395（福岡県立大学生涯福祉研究センター内）

TEL／FAX 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回（1月・4月・7月・10月）発行しています。

福祉用具はあなたの自立をさえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

床ずれ予防ハイブリッドマット「ピーウェーブ」

P-Wave

自立支援と快適さを求めて開発しました。

いよいよ、全国に向けて販売開始します。



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

NPO 福祉用具ネットのロゴマークは明石尚典さんのデザインです。

平成 17 年度 NPO 福祉用具ネットの通常総会が開催されました。

総会に先立ち開催された理事会と同様に、ここでも本NPO法人の財政基盤の強化が最大の課題として議論されました。

長期的な計画では、福祉用具の展示と相談機能を発揮しうるスペースの確保であります。当面まず、本NPO法人開発の自立支援型マット「P・Wave」の販売であります。また、手狭な事務所の移転も活動が活発になるとともに大きな課題となっています。

財政基盤の強化の一助として、また支援の強化として会員の皆様におきましても、会員の拡大にご協力賜りますようお願い致します。

理事長 豊田 謙二（福岡県立大学教授）

平成17年度通常総会議事録より

- 1 開催日時 平成17年5月12日（木曜日）18時30分～19時30分
- 2 開催場所 福岡県田川市大字伊田4395番地 福岡県立大学生涯学習資料室
- 3 出席者数 出席者数86名（うち書面表決者数 52名）
会員数 119名のうち出席者数86名うち委任状提出者52名であり議決に必要な定足数であることを確認した。
- 4 主な審議の経過の概要および議決の結果は以下の通り。
 - (1) 平成16年度事業報告及び決算報告並びに監査報告承認の件
理事長 豊田謙二より平成16年度事業報告・貸借対照表・収支計算書・財産目録の説明を行った。全員賛成により事業及び決算報告を承認した。
監事より監査報告が行われ全会一致で承認した。
 - (2) 平成17年度事業計画（案）及び会計収支予算（案）承認の件
理事長 豊田謙二より平成17年度事業計画案並びに会計収支予算案について説明が行われ、原案どおりに全会一致で承認した。
 - (3) 役員の辞任と新任の件
理事長 豊田謙二より、町井照美理事の職場移動による理事の辞任届け提出の報告があり、新任の理事選出について事務局より門田光司氏（福岡県立大学社会福祉学科教授）の選出について提案があり、門田光司氏の理事選出を全会一致で承認した。



平成17年度通常総会のようす （平成17年5月12日）

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」(その3)

九州日立マクセル(株) 新分野開発PT長 坂田 栄二

持ち込まれる「不満だらけ」の福祉用具

前号で紹介した「徘徊老人監視システム」を思いっきりへこませた「福祉用具研究会」も回を重ねるにつれ、容赦なくズバズバ切り捨て評価すると言う悪名(?) 高き評判が立ち、人伝いにいろんなものが持ち込まれるようになってきました。

そんな参加者の多くが、「私の作品は完璧だから、叩かれる事は無い。」と自信を持って臨むのです。あたかも「福祉用具道場」にチャレンジするかのよう。しかし、ほとんどの人が「ありがとうございました。」と言っては帰るのですが、その顔は一樣に慚然としていました。

何しろ「福祉用具研究会」は福祉用具に強い関心を持っている人たちで構成されているものですから、看護師、介護士、PT、OTのような現場での専門家に加え、建築設計士、大学の先生、お医者さん、役所の職員と人種はさまざまのため、持ち込まれた福祉用具をいろんな方面から評価します。

評価を受けて「えっ！」と思うことがたくさん出てきます。

「そんなことまで配慮しなければならなかったのか！」

この言葉こそが、現場を知って開発したものか、机上の思い込み設計で終わったものかの違いから出てくるのです。そしてこの言葉を聴くことこそ、研究会のメンバーが待ち望んでいることなのです。

利用者と介護者の両方が満足すべきでは

あれこれ注文をつけられたメーカーの開発者は、私と同じようにすごすごと肩を落として帰っていきます。しかし一人だけタイプの違う人が現れました。くじけることを知らない開発者です。

彼は、「寝たきりの人をきれいにしてあげたい」との思いから、介護シャワーに目をつけました。

まず考えたものは、温かいお湯で冬でも使え、垢もよく落ちる温水式シャワー。そのために湯沸しジャーポットを利用すれば、お湯は沸かし、汲み出しポンプでシャワーにもなる。さらにAC電源の無いところでも内蔵充電電池で使えるという至れり尽くせりの機能満載の商品。

彼は得意満面の笑みを浮かべながらジャーポットを両手で抱えるようにして、会議室に入ってきました。いつもの30人くらいの参加メンバーは、何事ぞといわんばかりに口を開けて彼を見入っていました。

自己紹介に続いて彼は「寝たきりの人はきっと喜んでくれると思います。」と思いをのべました。

この言葉に敏感に反応して、すかさず手を上げた人が、

「誰が使うのですか？そんなに大きくて重いものを…」

このメンバーは、寝たきりの人は喜ぶかもしれないけれど、現場で介護する人のことを考えていないことに疑問を持ったのでした。健常者用商品は、使う人 本人が満足すれば事足りる。しかし、

「福祉用具は、利用者本人と介護者の両方が満足できるように開発すべきではないでしょうか…」

この言葉を皮切りに、参加メンバー者から各自の立場から次々と改善要望を出しました。合計すると21項目。いつものごとく、どれも「なるほど！」と思える指摘点ばかり。

彼は、笑顔を崩すことも無く、

「よく判りました。来月の例会に間に合うように改造します。」

こんな受け答えをする人は初めてで、参加メンバーは半信半疑。この人は本当に指摘内容を理解したのか。「大丈夫！ちゃんとメモしましたから。」 と言い残して彼は出て行きました。

くじけない開発者

1ヵ月後、約束どおり彼は試作品を小脇に抱えて、参加メンバーの前に現れました。

「ずいぶん小さくなったでしょう。ホラ、こんな風に持ち運べるんですよ」

身振り、手振りを交えながら笑顔で説明する彼を一同唖然。

「お湯の機能はやめました。ヤカンで沸かしたほうが早いし……」

なるほどメンバーは納得。ここで新たな追求点。

「小さくなった分だけ水量が少なくなったのだから、シャワーは節水型にすべきでは？」

「タンクが小さくて複雑だから仕舞うときに時間がかかりすぎる。」

こんな指摘を彼はあわてることも無く悠然と聞いています。

「判りました。来月の例会にはちゃんとご期待にこたえます。」

くじけた風もなく部屋を出て行きました。

このころから、参加メンバーの間では彼を「開発おじさん」と言うようになりました。彼は家電品メーカーを定年退職後、自分のお金でいろんな福祉用具の開発を始めたのです。

2ヶ月遅れの開発おじさん

翌月の例会に開発おじさんは現れませんでした。みんなは「今度は何を持ってくるだろう」と期待していたのですが、やはりほかの人と同じようにめげてしまったのでしょうか。それともお金が続かなくなったのでしょうか。

しかしそんな心配をよそに、2ヵ月後の例会の前の日に彼から明るい声の電話、

「あした、いいものを持ってきますから」

よかったな。開発続けていたんだ。

しかし開発おじさんは家電品の開発に長年携わって来たとは聞いていたが、福祉用具の知恵をいつ身につけたんだろう。皆さんもそんな疑問がわきませんか？

実はこういうことだったんです。

研究会メンバーから付けられたいろんな注文内容は理解できるのですが、どうやれば解決するのか見当もつかない。いかに開発部長を長年やってきたとはいえ、見栄えを重視する家電品と現実を優先する福祉用具とはまったく考え方が違うからです。

困り果てた彼がこっそりと訪ねたのはある病院の訪問看護ステーションでした。彼はこのステーションで現場バリバリの婦長と出会い、試作品を見せては知恵をつけてもらっていたのです。しかもこの婦長から“現場がいかに大変であるか、そのためには何が必要か”を聞き出し、しゃべり方まで勉強していたのです。

そして今日がその成果発表の日なのです。

部屋に入ってきた彼は布製の手提げ袋を1つだけ。開発おじさんは何を見せたいのだろうと固唾を呑んで見守るメンバー。

「こんなになっちゃいました。」

と自慢げに、袋をみんなが見えるくらいまで高く掲げ、ついで袋からホースやシャワーヘッドを取り出して

「タンクは訪問先のバケツを使ってください。水抜き作業もこのとおり簡単。」

誰かが拍手をした。

「いつから売り出すの？」「いくらで売るんだ？」「どこで売るの？」

いつしかメンバーの関心は、指摘点ではなく販売のほうに寄せられていました。

「私もゆとりが無くて、事業を起こすまではできませんよ。でも作りたい。何かいい知恵ありませんか？」

開発おじさんがみんなの前で初めて見せた悲しい表情。いつも笑っていたおじさんなのに。
自分たちで作ることはできないのだろうか。

自分たちで作ろうじゃないか

私たち研究会メンバーは、これまでいろんなメーカーさんが訪れては評価は聞いても、思うように改良はしてもらえない歯がゆさを味わっていました。

このころからメンバーの中に、できないことは自分たちでやろうじゃないかという雰囲気ができつつありました。

そんなある日の研究会の席で、研究会代表の教授が
「皆さんは、NPOって何かを知っていますか。研究会からNPOを立ち上げたいのですが」
そんなことがこのメンバーで出来るわけが無いという人や、やってみないとわからないじゃないかと言う意見が飛び交い議論白熱。(次号へ続く、いよいよ次号は「波乱万丈のNPOの船出」です。)

＊シャワーは平成 14 年度産炭地域振興センターの助成を受けて改良し現在販売中です。



洗髪シャワー



介護シャワー

ある大学病院の車いす事情

佐賀大学医学部 助教授 松尾清美

ある大学病院の玄関には、何十台もの溶接型車いす（標準型とか一時乗用車いすと呼ばれるもの）がある。外来に来られた患者さんの中で、歩きにくい方や歩けない方々の移動の補助器具として使われるのである。その車いすに座っている患者さんを見ると、ずっとけて座っていたり、背中を丸くして座っている方が多く、何とか綺麗に楽に座らせてあげたいという気持ちにさせられるのは、私だけだろうか？ 私も車いすで生活しているが、あの脊柱の曲がり方は辛いだろうと思うし、おまけにクッションも敷いていないのである。このまま外来で診療を待つ間に、座り疲れを起こすことは間違いない。本来、病院へ診察に行くときは、心理的に疲れる場所であるので、座り心地くらい楽にしてあげたいものである。そこで、病院長に相談した。「現在病院にある溶接型車いすは、10 年もつようにメンテナンスしますので、もう買わないでください。新しく車いすを購入するときは、モジュラー型車いすや調整型車いすを数台ずつ導入してください。そうしないと、患者さんたちが皆、車いすは疲れる。車いすに乗るようにはなりたくないと思ってしまいます。」とお願いしたところ、「今年度から、車いすは 10 年かけて改善していこう。ベッドや便器への移乗動作を自立しやすい車いすを使えば、スタッフの腰痛防止にも繋がる。これは経済的なことである。」という返事が返ってきた。これから、10 年かけて、病院の車いすの改善に着手する。皆さんの周りでも、やってみませんか？

福祉用具を利用した場合のヒヤリ・ハットケーススタディ

太陽セランド(株) シルバー事業部部長 甘村 雅博

福祉用具のヒヤリ・ハットは、事故がおきてからでは遅い。決して他人事ではなく、ケースで学び身の回りの事例にも確認が必要だと思います。

ケース1

● ベッド床の（脱落）墜落 病院の例

■ヒヤリ・ハットの具体的内容

居室移動のためにベッドで患者を移送中、ベッドのメインフレームとフットボード側のフレームを固定していたボルトがはずれ、ベッドの寝台部分（フレーム、マットレス）が患者を乗せたまま床に脱落した。患者に被害はなかった。

■ヒヤリ・ハットの発生した要因

ベッドのメインフレームとフットボード側のフレームを固定していたボルトの緩み。

■実施したもしくは考えられる改善策

フレームを固定していたボルトが、経年使用により緩みを生じる部分か否か調査中。院内全ベッドを対象に、固定ねじ、ボルトの締め付け点検を実施中。

ケース2

● ベッド床の（脱落）墜落 在宅の例

■ヒヤリ・ハットの具体的内容

夜間になると不穏になられる利用者が、家族が目を離したほんの一瞬に、ベッド柵を乗り越えて床に転落した。

■ヒヤリ・ハットの発生した要因

不穏な状況にもかかわらず、その場を離れた。

■実施したもしくは考えられる改善策

その場を離れるときには、必ず、誰かを呼んで見守りが出来る体制を維持する。

【ポイント】

ベッド柵は高さが限られていることからベッド柵を利用した座位の保持や転落防止には限界があることを理解しましょう。特に自力で行動できる人の場合、高い柵はむしろ柵を乗り越えようとすることで転落時の障害を大きくする可能性が指摘されています。ただし、その方の麻痺側の体を支える固めの枕など補助具を固定するのにベッド柵が利用できます。転倒・転落の発生を完全にコントロールすることは困難です。転落の予防と同時に、ベッドの高さを低くする、衝撃を吸収する床材

を採用するなど、転落しても障害が少なくなるような工夫も必要です。

座位になれる人であれば、状況によっては車椅子に座らせるのも安全を保つ一つの方法かもしれません。

ケース3

● ベッドからの転落

■ヒヤリ・ハットの具体的内容

食事介護が必要な方のベッドを90度に上げ、ベッド上に座位の姿勢で保持していた。配膳しようと思い、その場を離れ、15分ほど経過した時点で行ってみると、上半身が床についていた。ご本人さんに外傷はなかった。

■ヒヤリ・ハットの発生した要因

片麻痺側にずれを防止するための枕等が入っていなかった。ベッド柵が上半身の落下を防止できる位置になかった。

■実施したもしくは考えられる改善策

麻痺側にずれてくることを予防するため枕等を使用する。落下を防ぐため、ベッド柵の固定位置を工夫する。

【具体策】

※姿勢保持のためには下肢の支えが重要ですが、転落前の下肢の状態はどうだったでしょうか。

また、そもそも15分間離れなければならなかった背景要因は何だったのか、避けることができなかったのかを検討してみましょう。

※姿勢保持のためには下肢の支えが重要であり、上半身を起こした場合には下肢の体位保持も行うことが必要です。座位になった時の安全な体勢は何か、確認事項をはっきりさせ、ベッドサイドを離れるときはこれらを確認して離れるようにしましょう。座位にした際に患者の欲求を聞きそれを満たしてから離れることも有効です。※片麻痺がある方は麻痺側に倒れやすいため、座位の姿勢を保持する場合にはあらかじめ何らかの予防を行うことが必要です。麻痺だけでなく転倒・転落を起こしやすい条件があります。転倒転落アセスメントシートなどを活用し、リスクを事前に把握して患者の特性に合った対策をとることが有効です。

今後の研修会予定

研修計画は、内容、日程、会場等で変更する場合があります。

所定の申込み用紙で締切日までにお申込み下さい。

日 程	内 容	会 場
④ 10月15日 土曜日 13時～16時 ■ ケアプラン研修会 申込締切 10月7日金曜日 	福岡市立心身障害福祉センター (理学療法士) 松野 浩二先生 ケアプラン作成研修会 「住環境整備とプランニング」 ～ I C Fの視点を取り入れて～ 対象者 ケアマネージャーなど	福岡県立大学予定 受講料 個人・団体会員 2,000 円 賛助会員 3,000 円 非会員 4,000 円 学生 300 円
⑤ 11月5日 土曜日 13時30分～15時30分 ■ 介護者研修会 申込締切 10月25日火曜日 	特別養護老人ホーム 好日苑 (作業療法士) 谷川 良博 先生 「認知症の介護について」 対象者 施設や在宅で介護されている方	福岡県立大学予定 受講料 個人・団体会員 1,500 円 賛助会員 2,500 円 非会員 3,500 円 学生 300 円
⑥ 12月3日 土曜日 13時～17時 ■ 介護者研修会 申込締切 11月25日金曜日 	脳血管障害のリハビリテーション ①脳血管障害者の介護方法について 13時30分から15時 田川市立病院 PT 長谷川 節子 先生 ②言語療法について 15時10分から16時40分 九州労災病院 ST 佐々木 千穂 先生 対象者 施設や在宅で介護されている方	福岡県立大学予定 受講料 個人・団体会員 2,500 円 賛助会員 3,500 円 非会員 4,500 円 学生 300 円
⑦ 1月21日土曜日 13時30分～15時30分 ■ 介護者研修会 申込締切 1月13日金曜日 	「医療依存度の高い利用者の 在宅ケアのポイント」 麻生メディカル(株) アップルハート訪問看護ステーション 所長 是松 きくゑ 先生 対象者 在宅介護に携わる方など ホームヘルパーや介護福祉士の方	福岡県立大学予定 受講料 個人・団体会員 1,500 円 賛助会員 2,500 円 非会員 3,500 円 学生 300 円

ちょっと 気になる福祉用具の紹介

手すりの紹介 トイレや玄関に！

(株)アーサーより発売の可動式手すり
商品名「え〜んでバー」

特長

- ① ADL に合わせられる上下無段階可動
- ② 左右可動
- ③ 収納機能

価格 1セット 39,900 円



電動ベッドの紹介 電動と手動の組み合わせタイプ

(株)モルテンより発売 離床支援型ベッド
商品名「トゥルース」

特長

- ①手動式の高さ調節機能
- ②電動式のひざ上げ&背上げ・ひざ下げ連動機能
- ③移動支援バーやサイドレールは背ボトムと連動して動く



事務局より

会員の更新手続きのご案内と新年度の新規会員を募集しています！

事業年度は毎年4月から翌年3月までです。

＊会員の皆様は、引き続き次年度の更新手続きをして下さいますようお願いいたします。

個人年会費 4,000円

団体年会費 30,000円

賛助会員は1口 3,000円

＊ 新年度の始まりです。NPO 福祉用具ネットの新会員を募集しています。

会員になると会員価格で研修会を受講できるなどのメリットがあります。

個人入会金 1,000円 年会費 4,000 合計 5,000円

団体入会金 2,000円 年会費 30,000 合計 32,000円

賛助会員 1口 3,000円

＊福祉用具・住宅改修の電話相談は無料です。是非ご利用ください。

電話 0947-42-2286 (月曜日～金曜日 午後1時から4時まで)

入会に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。また、NPO福祉用具ネットの活動状況は、ホームページで詳しくご覧いただけます。ホームページは随時更新していますので是非一度覗いてみてください。アドレスは表紙をご参照ください。